

フレイル予防活動の紹介

contents

- ・ 禁煙外来の紹介
- ・ 地域連携研修会の報告と次回予告

禁煙外来 の紹介

禁煙しませんか？

当院では2015年11月から、毎週水曜日午後、完全予約制で禁煙外来を行っております。

喫煙は百害あって一利なし。発癌のリスクを高めるだけでなく、様々な疾患に関与しています。

またその健康被害は周囲の方にまで影響が及んでしまうこともあります。

コロナ禍のストレスで喫煙本数が増えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私たちはこれまで禁煙に取り組んできたご経験のある方や、少し健康被害が気になって加熱式タバコに変更した方など、禁煙意欲のある方のお手伝いをしたいと考えています。



すでに多くの方にご利用いただいております。禁煙補助薬によって約7割の方が禁煙を達成されています。専門スタッフがご対応いたしますので、興味のある方は是非お問い合わせください。

尚、過去に医療機関で禁煙治療をされた方は初回診察日から1年経過していないと保険診療を受けられないのでご了承ください。

禁煙することでこれまでと違った彩りにあふれた未来を見ませんか？



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL.(直通)055-253-9000/FAX.(直通)055-251-7733

フレイル予防プロジェクト スタート

"Frailty prevention project" started



山梨県立中央病院
院長

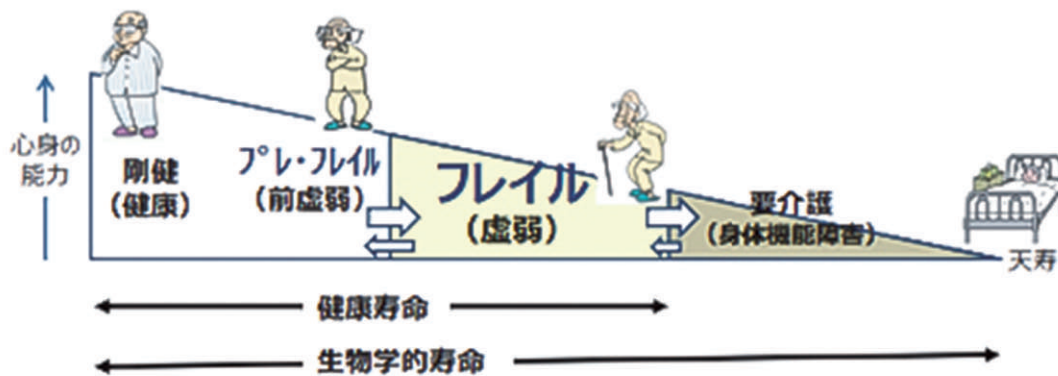
中込 博

高齢化社会を迎え、フレイル予防は地域社会で大変注目されています。しかしながら、急性期病院ではあまり取り組みがなされていないのが現状です。患者さんの高齢化とコロナ禍での巣ごもりの状況を鑑みますと、病院においてもフレイル予防に取り組むことは非常に重要な事と考えます。フレイル予防の意義としては、当院の目標である“患者さんを早くきれいに治す”に加え“患者さんが長く元気でいただく”ための取り組みになるものと考えます。中央病院でのフレイル予防活動の骨子は、フレイル予防の啓発活動、入院患者さんの実態調査、フレイルへの介入の確立です。

CHECK
1

フレイルとは…

フレイルとは、加齢や病気を契機に心身の予備能力が低下した状態のことです。フレイルが進むと日常生活が自分ひとりではできなくなり、介護支援が必要となります。



(葛谷雅文：日本老年医学会雑誌 2009; 46:279-285. より引用改変)



フレイルの予防には、栄養・運動・社会参加が重要と言われています。それぞれの要素を判定して「身体的フレイル」「口腔フレイル」「認知的フレイル」「社会的フレイル」と分類することができます。

CHECK 2

フレイル予防啓発活動

10月末日より、当院で作成したフレイル予防のパンフレットを患者さんにお渡しています。フレイルと病気との関係、身体的・口腔・認知的・社会的フレイルのスクリーニングのための質問票、そして当院でのサポート体制（栄養指導、リハビリ、嚥下外来等）と地域連携への繋がり（医科歯科連携・かかりつけ医への連携・地域包括センターの紹介）を示しています。リハビリテーション科で体力に応じたフレイル予防運動の動画を発信するとともに実践編のパンフレットを作成してくれました。

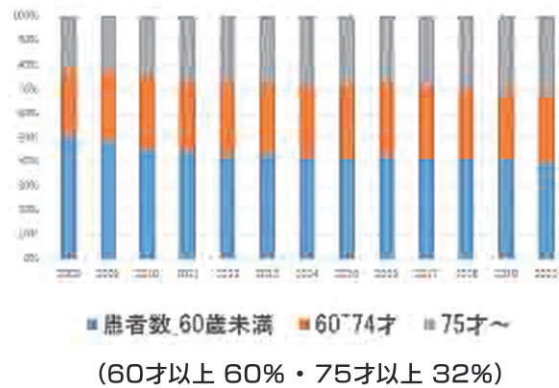


CHECK 3

入院患者さんのフレイル調査

さて、当院の入院患者さんの高齢化率です。60歳以上60%、75才以上32%と10年ほどの間に10%程度増加しています。我々は、成人の入院患者さん全員のフレイルの状況をスクリーニングする体制を作りました。1000~2000人規模の患者さんの調査を行い、フレイルの状態を把握し、病院としてどのような介入をするべきか検討していく予定です。

当院入院患者の高齢化率



CHECK 4

フレイルに対する介入の確立

急性期病院がどこまでフレイルの予防に取り組めるのかが課題です。長期的な栄養や運動の指導、外来でのリハビリ対応、社会的活動の推進そして介護とのつながりなど、かかりつけ医の先生方が力を注いでいただいている内容かと思えます。かかりつけ医の先生方が、検診や日常の診療の中で、さまざまな疾患を拾い上げ、紹介していただいている現在の地域連携に加え、急性期病院で私どもが、フレイルをキーワードにかかりつけ医の先生方をお願いする患者さんをスクリーニングすることになるものと思えます。患者さんを地域で支えるチーム医療の確立につながるものと考えます。

CHECK 5

皆が元気になるために

フレイルは病気の有無を問わず、また医療者もふくめすべての人が向かうべき課題です。課題ではありますが、その予防活動や運動は健康維持のための生活習慣をつくり、楽しみや生きがいにつながるものと考えます。患者さんだけでなく医療者も元気になるような取り組みになることを期待して進めてまいります。

地域連携研修会が 開催されました

8.26 THU

「循環器疾患の最新の治療と県立中央病院での今後の展望」



令和3年8月26日(木)、地域連携研修会をWebにて開催しました。循環器内科 佐野圭太医師より「循環器疾患の最新の治療と県立中央病院での今後の展望」について講演していただき、院内外約50名の参加がありました。

大動脈弁狭窄症は開胸手術が行われ、術中は人工心肺装置を利用することで全身の臓器にかなりの負担が強いられてきました。最新の治療では、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)により新たな術式の選択肢があり、身体への負担が少ない治療法等について紹介していただきました。

9.27 MON

「当院の胃癌治療

～高齢、肥満、ハイリスク化する患者への多職種チーム医療の取り組み～」

「胃癌治療に伴う腸瘻造設患者の看護」

令和3年9月27日(月)、地域連携研修会をWebシステムを利用して開催しました。

当院の外科副部長 大森医師、副看護師長 保坂看護師により講演し、院外17名、院内43名の方に参加していただくことができました。研修後のアンケートからは、「胃癌の現状が良く分かり今後の予測ができた」「別の分野の話が伺えて勉強になった」など沢山のご意見をいただきました。



Web研修会

地域連携研修会のご案内

周産期医療懇話会と
山梨県立中央病院の
共催による講演会

日時: 12月23日(木)
18:00~

Zoomでの開催

新生児の呼吸の
おはなし(仮)

北海道大学病院
周産期母子医療センター
センター長 長 和俊 先生

研修会の情報は
ホームページでもご案内しています。
併せてご覧下さい。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

▶ ホーム / 医療関係者の方へ / 講演会・研修会 /
講演会・研修会 / 地域連携研修会

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、
かかりつけ医によるFAX予約ができます。 **FAX. 055-253-2903**

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

かかりつけの 医院を受診

紹介状をもらって
ください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎ **055-253-7900**
9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)